

小学校統合プラン説明会会議録

と き 平成23年7月9日午後7時30分～午後9時

ところ 安田地区公民館

出席者 地区民男性12人、女性8人 計20名

石前委員長・高塚委員・進委員・前畑委員・永田教育長・生田課長・藤村課長・田中課長
浅田補佐・谷本補佐・高力係長

開会 生田課長

あいさつ 石前委員長

統合プラン説明 永田教育長

資料により説明させていただき、皆様とともにこの問題を考えていきたいと思う。

別紙資料により説明。

財政推計について生田課長説明

質問・意見交換

- 教育委員会のこのプランはあらゆる角度から検討され感心した。以西小はまだ10年そこそこで、このような施設はやはり30年、50年先のことを考えてやらないといけない。統合の話聞いて、いいとはなかなか言えない。こういう問題は部落の隅々まで浸透して、みんなの理解が必要ではないか。
- 現在学校等の借金はどのくらいあるのか。
- 22年度末で14億6千3百万円あり、単年で1億3千7百万円償還している。
- 統合への課題のところ通学方法等いろいろ書いてあるが、今後そのようなことがどのような形で伝わってくるのか。
- 進め方は、まず9地区で地域、保護者の方に説明会を計画している。その後、小学校単位で小学校・保育園の保護者を対象に説明会を計画している。統合の目標を26年度としているので、来年1月くらいに準備委員会を立上げ、課題などを練り上げながら進めていきたい。
- 今後の課題は準備委員会のようなところで解決を図るのか。
- 準備委員会を立ち上げ、課題を練って、統合までの2年間でPTAや児童の交流、また通学方法、通学路等の整備を行なっていきたい。
- 財政推計の話で、あまり変わらないのであれば、財政的には統合しなくてもいいのではないか。また、通学路の問題について、安田から成美に行く広い道路がないので、歩行者専用道路のようなものにするしか対応策がないと思う。
- 財政的には、統合してもそんなに変わらない。財政が逼迫しているので統合をするのではないかという質問もある。少子化が進行してきて、数人の学級しか出来ない、本当に

それでいいかという観点で進めてきた。将来的に少なくなっていく状況に、今どういう手を打っていくかということで、こういう提案をさせてもらっている。

通学路の問題ですが、子どもの安全を一番に考えていく必要がある。学校の実態等を勘案しながら、通学方法を決めていくことで通学路の問題も解決していきたい。

○ 以前、新聞に学校の耐震強化を2015年くらいまでにするというような報道があった。そのあたりは方針決定後にされるのか。

● 琴浦町の小、中学校建物の耐震化は終わっている。昭和56年以降は耐震化をクリアしているし、56年以前の建物は大規模改修と一緒に耐震補強している。

○ 150年からなる学校が廃止とかになるのは、住民として断腸の思いがある。たとえ統合になるにしても、ゼロからのスタートにしてもらいたい。準備委員会の立上げということがあるが、それは地区単位か、全体か。

● 教育委員会は、新しくなる学校単位で考えている。また各校共通するような問題は全体で話し合う必要があると思う。

ゼロからのスタートというのは、配置審議会の中でも吸収統合でなく、新たな学校ということだったので、教育委員会もそのように考えている。

○ 今は3校の統合案で出ている。人口推計では2035年まで出ている、これを見ると劇的に減るということで、一気に4小学校の統合でどうか。やはり1回統合しておいて、何十年後統合というのはどうかと思う。

● 今、教育委員会では、4小学校をすぐ統合するということは考えていない。それは全体的に考えて、今ある校舎が利用できないことと、あまり大きすぎるのもいけないという理由である。今回、喫緊の課題を解決するための統合をした場合は、10年・15年後の統合はできないと思う。ただし、そのころには児童生徒の減少ということは予想されるので、その時には小学校問題だけでなく中学校問題も一緒に考えていく必要はあると思う。そういった意味で統合プラン(1)(2)の提案させてもらっている。

○ 今、新聞紙上でも認定子ども園というのがあるが、これはどのようなものか。

● これは新しい就学前教育で、県知事が認定子ども園を認可する。県内にも私立の認定子ども園は何園かある。町内でも八橋幼稚園と八橋保育園を一緒にして、保育所型の子ども園を建設中で24年度から開園予定である。

○ 小学校の統合で、保育園統合もそのような形で関連してくるのか。

● 経過の中でも話したが、各委員会から保育園と小学校について提言があり、保育園もあり方審議会が持たれ答申が出されている。それにより、古布庄保育園が幼保園と一緒にになっている。浦安保育園と逢束保育園は現在議会等でも論議になっている。八橋幼稚園、保育園の認定子ども園は、皆さんの理解をもらい建設中である。赤碕中校区は今現在、具体的なものは進んでいない。

○ 小学校の問題は、最初の審議会から注目していた。町民は、お金がないから統合するという意識でずっときた。そういうことで言うと琴浦町行財政改革審議会、議会の行財政

改革特別調査委員会の提言は、財政面からのことだと思う。そうしたら、いつの議会だったか、財政面が抜けて、子ども一人一人に重きを置いてするような発言があった。審議会答申も一部踏襲しているが、吹っ飛んでしまった感じがした。それは答申が1学年2学級以上というのが出ていて、町長はそれを尊重するということだったと思う。それが、焦点を少子化のほうにいったように感じた。やはりもういっぺん財政面ではないということを書いてもらいたい。

教育委員会の会議録が今年の5月からホームページに載っていない。一番大事な話をしている教育委員の声がこちらに伝わってこない。

教育委員会が言われていることと住民の受ける思いがかけ離れているため、共有できるような体制で進んでもらいたい。

このプランはいつ決まって、どういう段階を経て決定していくのか。そこらあたりの日程的なものはどうなのか。

● 最初に行財政改革審議会、議会行財政調査特別委員会も、行財政改革という面もあると思うが、財政面からの提言、報告だけではなく少子化等いろんな面を含んでいる。それを受けて教育委員会が審議会へ諮問したのは、「次代を担う琴浦町の子ども達の育成を図るための活力ある小学校教育のあり方について」ということで、財政云々ではない。子ども達が少なくなる中で、どんな環境で子ども達を育てていくのかということでもまとめている。

小学校が一番地域に根ざした公共施設である。今まで出てきた議論は良く分かるが、子ども達がこのような状況に置かれてしまうため、どうですかという問いかけである。最初にも言ったが、5年後10年後を見据え、教育者、保護者、地域として、どんな手を打っておかないといけないかと思っている。

この問題はどこで、どう決めるのかということだが、各地域、保護者の意見を聞いて、最終的には教育委員会で考えをまとめて議会等に諮り、進めていくと思っている。

● 広報についてですが、チラシを区長文書で全戸配布し、あと各部落区長さんへ部落放送のお願いをしている。行政無線については各地区放送ができないので、していない。

○ 私も3回部落放送したが、これは町全体の大きな問題なので行政無線での周知も必要ではないか。今後の説明会に生かしてほしい。

● 次回には生かしていきたいと思う。

○ これから子ども達が育っていき、外に出て行くと思う。その時、子ども達に帰ってきてほしいと言いたいが、それを言いきれるかどうか。今の学校が遠くになり子供達の教育にどうなのか、子ども達が帰ってきたくなくなるような、帰ってこいと言いきれる、そういった学校になるのかどうか、しっかりした学校プランを作成してほしい。

○ 他にご意見はありませんか。長時間にわたり皆様方のご意見を賜り有難うございました。また後日でも機会を捉え意見をいただいたらと思う。

閉会 高塚委員

午後8時55分閉会